

英語「聴く力」(リスニング能力)の修得

池田明子

様々な分野でグローバル化が進む今日、英語を通じて世界のより多くの人々とコミュニケーションがとれるようになることは、多くの人々が望むことであると同時に、企業で働く人材に求められる要素でもある。一般に、高校までの英語力は、試験に合格するためのものであるが、大学を卒業して求められる英語力とは、英語をツールとして駆使し、国際的なレベルで世界の人々と仕事ができる、ということである。ここで留意しておきたいことは、世界の人々をつなぐコミュニケーション・ツールとしての英語とは、英語を母国語としない人々同士で英語を通じてコミュニケーションをとる場合のほうが、そうではない場合、つまり英語を母国語とする者と、英語を母国語としない者との間で話す場合よりもはるかに多い点である。例えば、ニッサンがルノーと提携した場合、トヨタがインド、ブラジルなどで現地生産を開始する場合、あるいはNGOの人々が推進する国際プロジェクト等で使用される言語は、大抵英語であろう。このように考えると、発音に様々な特徴のある英語が存在し、理想的にはそれらの人々の話す英語も十分理解できるようになるべきだが、現段階ではそのように様々な英語が存在するという認識を持ってもらうことに留めたい。

ここではまず、英語を母国語として話す者の英語をある程度理解できるようになるにはどうしたらよいかを考えてみよう。相手とコミュニケーションをとるには、当前のことだが相手の話すことを理解するリスニング力が不可欠である。この、試験対策としての英語力ではなくて、コミュニケーション・ツールとしての英語力を伸ばすには、大学生時代にどのような勉強方法が可能か、以下、英語のリスニング力の涵養に関して考察を試みたい。

この聴く力は一朝一夕に伸びるものではなく、やはり毎日なんらかの形で生きた英語、つまり実際に使われている英語に触れることが望ましい。こう言うと、そのためには留学しないと無理、との反論が聞こえてきそうだが、様々な情報手段、とくにインターネットが普及している今日、英米諸外国に長期滞在しなくとも、生きた英語に触れ、リスニング力をかなりの程度まで伸ばすことが可能である。ただ、週数回の学校の授業だけではリスニング力をアップするには無理があり、やはり自ら自主的にインターネット等を駆使し、毎日なんらかの形で英語を聞く必要がある。リスニング力の向上には、「習うよりは慣れる」の慣用句が当てはまる側面もあるがゆえ、よく、聴いているだけで英語力がつき自然に英語が話せるようになる等の文句を新聞広告などで見かける。これは

全く効果がないとは言わないが、この勉強方法だけでは上達に限界がある。それではどんな方法がもっとも効果的と言えるのか。

それには数種類のリスニング方法をうまく組み合わせることが必要ではないだろうか。例えば、短時間集中して比較的短い英会話を聞き、問題を解く練習用のリスニング、内容理解を目的としたスピーチおよびレクチャー等のリスニング、そして通学・通勤など空き時間を利用した比較的集中力を必要としないリスニング等の方法をうまく組み合わせ、毎日何かしら聴くことを続けることで、リスニング力はかなり向上するだろう。そのようなリスニング教材でも、いくつかの種類に分かれる。CD付き問題集あるいはCD付き書籍を繰り返し聞く、テレビの二カ国語放送を聞くなどの方法もあるが、本稿ではインターネットに焦点をあてて、はじめにどのような種類の問題が望ましいかを考察し、次いで筆者が実際に利用しているインターネットサイトを具体的に紹介してみることにする。

1. スクリプトつきサイト

(1) 練習問題

この種類のサイトの優れた点は、練習問題方式のサイトの場合は問題をやったあとで、その問題となった会話なりスピーチなりのスクリプトを文字で確認できる点である。これはとくにリスニング能力の低い学習者には適している。大抵の場合、自分で操作し何回でも会話を聞くことができ、すぐ後にその会話を文章で確かめることができるうえ、多くの場合、覚えるべき単語が注として載っているため、それらを確認し覚えてゆけば、語彙数も増やしてゆける。ただ、これらのサイトは英語教育者が英語を母国語としない学習者向けに作られているので、スピードが故意に遅く作られている場合もある。

(2) スピーチ・レクチャー・インタビュー

著名な人々のスピーチ等は、Youtube等で英語のスクリプト、ものによっては日本語訳が付けられている場合がある。このサイトの良い点は、英語学習者を対象としたものではないので、スピード、言葉の言い回しなど、リアルな英語を見聞きし、文章でも確認できることである。これの難点として挙げられる点は、多くの場合は問題等がついていないので、そのまま聴き流してしまったら、聴きとる努力をせずにスクリプト、あるいは和訳を読むことを優先してしまうことである。学習方法としては、やはり最初の1, 2回はそれらを読まずに聴くことに集中し、後で確認する手段としてそれらのスクリプトを読むのがよいだろう。

2. スクリプトなしサイト

スピーチ・レクチャー・インタビュー・ポッドキャスト・Youtubeなど

この種類のサイトの優れた点は、上記同様、英語学習者に向けて作られたものではないのでよりリアルな英語が聴ける点に加え、自分の興味にあったものを自由に選択できる点だろう。現在、インターネットを通じて欧米の著名な大学の講義の中から自分の興味がある分野の講義を聴講することは可能である。ただ全内容を細かく記したスクリプトがついていることは稀なので、かなりの英語力が求められる。しかしながら、自分の興味に基づき、様々なレクチャーおよびテレビ番組や映画のワンシーンをYoutube等で見ることは、勉強という感覚を超えて楽しむことができるだろう。さらに、それらを含め、インターネット上にある様々な音声・映像を再生するポッドキャストというシステムを利用し、その内容をi-podなどの携帯用オーディオプレーヤーに転送すれば、自宅や学校ではなくても通勤・通学など外出先で、音楽を聴く感覚で英語を聴くことができる。現在ではテレビ、雑誌、教育機関等、様々な機関で独自のポッドキャストが作成されており、一度登録すると毎月、毎週、あるいは毎日、その頻度は番組によって異なるが、自動的に更新してくれる。ポッドキャストの中には有料なものと同様無料なものがあるが、無料のサイトでもその内容は大変優れたものが多い。例えば、筆者の場合は英文学と歴史に興味があるため、英国BBC放送局が制作しているBBC World Book Club、BBC History Magazine、および一般的なニュース番組のNewsPod、またアメリカの放送局が制作しているCNN Dailyというサイトに登録しているが、すべて無料である。前者二つのサイトは毎月実に興味深い内容で楽しむことができ、後者は毎日、あるいは2日おきに自動更新される。これらのサイトを楽しむには、かなりの英語力が必要とされるかもしれないが、自分の興味にもとづき選べる範囲が非常に広いこと、またイギリス英語、アメリカ英語、オーストラリア英語、などの違いがよくわかること、そして勉強という感覚ではなく英語に触れられる点が魅力的である。スクリプトはないとはいえ、要点だけを述べているアウトラインがホームページに記載されていたり、有料になってしまうが、内容にそったテキスト、雑誌等を購入して再度内容を確認することは可能な場合が多い。さらに、ポッドキャストには英語学習用に作られたものも多々存在する。日本の大手英会話学校や欧米の英語教育機関も制作しており、これを利用すれば初級レベルのリスニング力でも十分に楽しむことができるだろう。それでは以下、筆者が実際に使用しているインターネットサイトをそのアドレスと共に紹介する。

(1) ESL-Lab

<http://esl-lab.com>

まず一つ目に上げるのはTOEIC等、資格試験で出されるような短い会話文に沿った問題が掲載されているサイトである。様々なサイトがあるが、その中でもまず筆者が授業で使っている上記のサイトを紹介したい。

このサイトの良い点は、レベルが初級・中級・上級と分かれていること、迅速に答え合わせができ、その後会話のスクリプトを確認しながら再度何回でも聞けること、そして覚えておくべき熟語が抜き出してあり、どのように使われるか例文も載っている点である。やり方としては、会話を聞きながら各問の選択肢の中から適切と思われるものをクリックしてゆき、最後に をクリックすると解答と各自の正答率が表示される。ある程度リスニング力がある者ならば1回聞いて答え合わせすればよいし、自信のない者は納得するまで何回でも聞いてから答え合わせすればよい。例えば、使い始めて1週間目は5回聞いてから答え合わせをし、2週間目は3回、その翌週は2回、と答え合わせをする前に聴く回数をだんだんと減らしていくのもよいだろう。また、初級から上級までかなりの数の日常で交わされる会話文が紹介されているので、毎日1つ、あるいは3つ、5つなど、自分でルールを決めて使うとよいだろう。

(2) Academy of Achievement

<http://www.achievement.org/autodoc/pagegen/galleryachieve.html>

次に紹介するのは、各界著名人のインタビューが紹介されているサイトである。取りあげられている分野も音楽・芸術、ビジネス、政治、科学、スポーツ等、大変幅広く、必ず数人は名前を聞いたことがある人物を見つけることが出来るはずである。そして興味深いのは、それらの人々が自分の子ども時代から各自の分野で功績を上げるに至った体験を、インタビュアーの質問に答えるかたちでかなり詳しく語っている模様が映像およびスクリプト付きで聴ける点である。

このサイトの優れた点は、先ほども述べたように、各人の表情を見ながらインタビューを聞けること、そして全てスクリプトで確認しながら聞けることであるが、かなりの長さのインタビューである。集中力が続くように2部、あるいは3部に分けて聴く、あるいは一つの質問に対して一回目はスクリプトを読まずに聞き、2回目にはスクリプトを確認しながら聞き単語を確認する、など、自分で工夫して使うとよいだろう。しかし何よりも、これらの人物各人が経験してきた苦労、どのような信念を持ち人生を歩んできたか実際に語られる内容が大変面白く、リスニング力アップのサイトというよりも、一人物のドキュメンタリーを見ているようで惹きつけられ、刺激をうけることができるサイトである。

(3) Steve Jobs

アップルの創設者の一人、スティーブ・ジョブスが2005年スタンフォード大学の卒業式で卒業生に向けて行ったスピーチである。アメリカの大学では、卒業式に著名人が招かれスピーチをするが、ジョブズのスピーチは特に人気があり、Youtubeおよびスタンフォード大学独自のサイトで聴くことができる。検索のキーワードにスティーブ・ジョブズ、スピーチ、スタンフォードと入力すれば、いくつかのバージョンが画面にあらわれる。中には日本語の訳がついているもの、英語のスクリプトがついているもの、また何もついていないものがある。最初はスクリプトも何もついて

いないものを聴き、その後スクリプト付きのもの、不安であれば日本語がついているもので確認するのも良いだろう。様々なスピーチの中でも彼のこのスピーチを勧める理由は、英語面においては、構成が大変しっかりしておりわかりやすいことがまずあげられる。まず最初に、このスピーチで話すことは三つである、と述べた後に1点目、2点目、3点目と要点を順々に述べ、その後具体的に説明してゆく様は、プレゼンテーションのモデルにもなるし、英語ライティングの構造にも応用できるだろう。しかしそれにも増して興味深いのは、彼の生い立ちから学生時代、大学中退からアップル創設、そして解雇され癌に侵されるまでが赤裸々に語られている点である。このスピーチも前記同様、英語の勉強というよりも、ある分野で成功を為した人物の経験にもとづく人生哲学を学んでいるようで大変興味深く聴けるだろう。

(4) Tamra Davis Cooking Show

<http://www.tamradaviscookingshow.com/>

Tamra Davisという米国の女性が制作している料理サイトである。以前は映画関係の仕事をしていたらしいこの女性は、現在二人の子どもを育てながら、料理に関する単発の仕事、ボランティア、そしてこのサイトを制作しながら夫と一緒にニューヨークで暮らしているようである。このサイトでは、ニューヨークでのDavis一家でのある日の出来事が、各場面にマッチした音楽を背景に彼女のナレーションと共に映し出され、10分弱のドラマを観ているようで大変面白い。ときどき子どもたちも解説をし、料理の準備に参加する様子は大変微笑ましい。このサイトの良い点は、食事のワンシーン、買い物に始まり子どもたちの世話をする様子、料理の細かい手順、そして仲間たちとの会食の様子など様々なシチュエーションを通して、日常会話を練習問題の型ではなく聞けること、また彼女の料理のレパートリーは広く、典型的なアメリカ料理から、メキシコ料理、中近東の料理等を手軽にアレンジしたものなど、料理番組そのものとしても大変興味深い点であろう。難点は、スクリプトがないことであるが、料理のレシピは簡条書きでスクリーンにも映し出され、ホームページでも詳しく記載されているので後で確かめることができる。また、日常会話も大変短く難しいことは言っていないので、あまりストレスを感じず映像とともに楽しむことができるだろう。

(5) ポッドキャスト

以下 1 ～ 3 までは、英語リスニング力向上法について書かれたオブライアン氏らの論文で紹介されているサイトであり、それ以外は筆者が実際に使っているものである。

(5)-1 ESL Pod

英語学習者をターゲットにしているので、初級レベルの学習者にも適しているだろう。1回の放送時間は約20分で、物語、あるいは会話が2回、1度目はゆっくりとしたスピードでその後やはりスピードを落とした英語で内容の解説が話され、その後2度目は普通のスピードで

放送される。このサイトの利点はスクリプトがついていること。やはり文字で正確に確認したい場合、初級レベルの学習者には大変役に立つだろう。また内容も難しいものではなく、映画、旅行、買い物などの日常会話でなじみ易いものからビジネスまでと幅広い。

(5)–2 English Idioms and Slang

タイトルの通り、英語のイディオムとスラングを紹介、解説する番組である。念のため確認すると、イディオムとは2語以上の単語の組み合わせから成り、それぞれの語の本来の意味を離れて、別の意味を持つものであり、スラングとは俗語と訳され、ある国や一定の地域内で共通の認識を持った人たちが互いに使い合う言葉である。このサイトでは、毎回一つのイディオムまたはスラングを、まずはそれが使われる典型的な場面を使って紹介し、その後例文とともに解説する。全体の長さは1, 2分である。スクリプトがついているので文字で確認することができ、英語上級者でもなかなか知らないイディオムやスラングも紹介されるので、すべてのレベルの学習者にとって英語を聞きながら語彙数を増やすことのできるサイトである。

(5)–3 Learn English Professionals

このサイトのホームページには、英語学習者をターゲットとした様々なポッドキャストが紹介されている。その中でも興味深いのは、オックスフォードにある英語学校に所属する学生たちによって制作されている番組。中国、日本、ブラジル、リトアニア、ドイツなど、様々な国出身の学生たちが1つのトピックについて毎回話す。学生にはそれぞれの母国語による癖があり、時には聴きとりづらいが、彼らのお互いの言っていることを聴き取ろうという姿勢は見習うべきであり、これこそ世界共通語としての英語を体感できるサイトであろう。

(5)–4 NewsPod

英国BBC放送が制作しているニュースサイトである。放送時間は約30分でほぼ毎日更新される。特に英語学習者をターゲットとしているわけではなくスピードも普通で、ビデオもスクリプトもついておらず30分という長めの番組なので、ある程度リスニング力がある学習者に適している。

(5)–5 ABC World NewsおよびCNN Daily

米国のABC放送およびCNN放送が制作しているニュースサイト。両者ともビデオもついており、2, 3日に1度更新される。長さはABCが約20分、CNNは5～7分である。

(5)–4 同様英語学習者用ではないのである程度の英語力が求められる。

(5)–6 BBC World Book Club

英国BBC放送が制作しているサイトである。このサイトでは、世界各国から英語で作品を発表している、あるいは作品が英語に訳されている作家を毎月1度、ロンドンにあるバービカン・センターに招き、彼・彼女の1つの作品について討論する様子を聴くことができる。このサイトの魅力は、議論される本を読んでいる者ならメール、電話を含めたインターネットを通じて世界各国からバービカン・センターで行われているディスカッションに実際に参加することが可能なことである。また招かれている作家も英語を母国語とする者ばかりではなく、ディスカッション出席者にも英語を第二言語とする者が多い。それぞれ母国語の訛りがありながらも英語を通じてひとつのトピックについて論じる様子は、コミュニケーション・ツールとしての英語の必要性を強く感じさせるだろう。

(6) Michael Sandel Homepage

<http://www.justiceharvard.org/>

NHK教育テレビでも放映されていた、ハーバード大学名物教授、マイケル・サンデル教授のホームページである。このサイトの最大の魅力は、ハーバード大学のサンデル教授の講義の模様を生に近い感覚で体験できる点である。英語のリスニングという以外に、教授の質問に対して学生が自分の意見を述べる様子、ひとつの問題に対し、賛成派と反対派がどのように議論を進めてゆく様子は興味深く、サンデル教授が何百人もの学生を相手に、一般的な話題から専門的な哲学議論に彼らを誘導するさまは圧巻である。ディスカッションの細かいスクリプトもつけられているうえ、各回の授業の要点が記載され、キーとなる専門用語をそれぞれ注がつけられているので内容を追うことは可能である。またサンデル教授の著書は日本語でも訳されているので、それを読みながら、あるいは読んだ上でこのサイトを利用すれば、リスニングの勉強とともに政治哲学の基礎知識も身につけることができるだろう。

以上、筆者が授業および私的に使用しているサイトを中心に紹介した。これら様々な類のリスニングサイトを駆使し、大学4年間のうちにリスニング力を含めた英語力を実際に使えるレベルまで上げることを目標に、教員も学生もお互い努力しよう。

参考文献

O'Bryan Anne and Volker Hegelheimer. Using a mixed methods approach to explore strategies, metacognitive awareness and the effects of task design on listening development.” *Canadian Journal of Applied Linguistics (CJAL)/ Revue Canadienne de Linguistique Appliquée(RCLA)* vol.12, no.1 2009, pp.9-38.